

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成21年4月16日 (2009.4.16)

【公開番号】特開2008-304481(P2008-304481A)
 【公開日】平成20年12月18日 (2008.12.18)
 【年通号数】公開・登録公報2008-050
 【出願番号】特願2008-241532(P2008-241532)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 35/00 (2006.01)

G 0 1 N 35/02 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 35/00 C

G 0 1 N 35/02 G

【手続補正書】
 【提出日】平成21年2月27日 (2009.2.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

試薬を収納するための試薬架設部を複数備え、装置内の所定の位置に夫々配設され夫々独立して取り出し可能な複数の試薬ラック、

反応容器を搬送するためのローダ、

ローダに保持された反応容器に検体を分注するための検体ピペット、

試薬ラックに収納された試薬であって、ローダに保持された反応容器に分注された各検体に対する測定依頼項目の各試薬を、当該試薬の架設位置に移動して分取し各反応容器に分注する試薬ピペット、および

反応容器に分注された検体および測定依頼項目の試薬からなる測定試料を測定する測光部、を備えた自動分析装置であって、

該自動分析装置は、測定依頼に対応して、ローダに保持された反応容器への検体ピペットによる検体の分注、試薬ピペットによる測定依頼項目の試薬の分注、および測光部による測定試料の測定を自動的に実行し、

前記自動実行中に、操作者が試薬の交換のために測定依頼項目に係る試薬が架設された試薬ラックを前記自動実行中の装置から取り出す場合に、当該自動分析装置は、操作者の取出し指示入力により当該試薬ラックの測定依頼項目に係る試薬の試薬ピペットによる分取を中断し、それ以外の試薬ラックに架設された試薬を用いて前記自動実行を行うことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 2】

装置から取出され試薬交換された前記試薬ラックが、操作者により再セットされた場合に、中断された当該試薬ラックの測定依頼項目に係る試薬の試薬ピペットによる分取を再開する請求項 1 に記載の自動分析装置。

【請求項 3】

再セットされた前記試薬ラックに架設された試薬の登録を受け付ける試薬情報登録画面を表示するための表示部を備えることを特徴とする請求項 2 に記載の自動分析装置。

【請求項 4】

試薬の交換のために取出された前記試薬ラックに架設された測定依頼項目に係る試薬と同

一種類の試薬が、前記それ以外の試薬ラックに架設されている場合に、その同一種類の試薬を用いて前記自動実行を行うことを特徴とする請求項1に記載の自動分析装置。

【請求項5】

ローダに反応容器を供給するための反応容器供給装置をさらに備えることを特徴とする請求項1～4の何れか1項に記載の自動分析装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は上記の目的を達成するためになされたもので、試薬を収納するための試薬架設部を複数備え、装置内の所定の位置に夫々配設され夫々独立して取り出し可能な複数の試薬ラック、反応容器を搬送するためのローダ、ローダに保持された反応容器に検体を分注するための検体ピペット、試薬ラックに収納された試薬であって、ローダに保持された反応容器に分注された各検体に対する測定依頼項目の各試薬を、当該試薬の架設位置に移動して分取し各反応容器に分注する試薬ピペット、および 反応容器に分注された検体および測定依頼項目の試薬からなる測定試料を測定する測光部、を備えた自動分析装置であって、

該自動分析装置は、測定依頼に対応して、ローダに保持された反応容器への検体ピペットによる検体の分注、試薬ピペットによる測定依頼項目の試薬の分注、および測光部による測定試料の測定を自動的に実行し、前記自動実行中に、操作者が試薬の交換のために測定依頼項目に係る試薬が架設された試薬ラックを前記自動実行中の装置から取り出す場合に、当該自動分析装置は、操作者の取出し指示入力により当該試薬ラックの測定依頼項目に係る試薬の試薬ピペットによる分取を中断し、それ以外の試薬ラックに架設された試薬を用いて前記自動実行を行うことを特徴とする自動分析装置を提供するものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

以下、測定の流れを説明すると、サンプラーにセットされた採血管の血漿は検体ピペットで吸引されて、一次取込部にセットされたキュベットに分注される。その取り込まれた検体は、加温ローダ1にセットされたキュベットに分注され、その際必要ならば希釈液も分注される。加温ローダ1では検体が所定時間ブレインキュベーションされる。そして、加温部キャッチャーがその検体をキュベットごと取出し、必要な際は反応準備試薬が試薬ピペットにて添加されて、加温部2に移され、加温部2で所定時間ブレインキュベーションされる。そして、検出部キャッチャーがその検体をキュベットごと取出し、反応開始試薬を添加して、キャッチャーに備えられた揺動部がキュベットを揺動して試料を混和し、本体左側奥に備えられた測光部の所定の孔にキュベットをセットして測定がする。そのようにして測定されたキュベットは測定が終了した順に廃棄部キャッチャーによって取出され、廃棄ベルトにて廃棄される。このようにして、測定項目によって反応条件が異なる項目もランダムアクセス的に測定してゆく。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

その測定結果に応じてリフレクトテストをする際には、一次取込部に保管されているキュベットから再度その検体を分注して測定を行うことができる。この一次取込部は試料をブレインキュベーションする加温ローダ1とは別であるので、加温することなく検体を保管しておくことができる。そして、リフレクトテストが不要であると測定結果によって判定されれば、その検体が分注されたキュベットは加温部キャッチャーによって廃棄される。